

地図が語る戦没者足跡

渡邊 康志、與那覇 里子

キーワード

ジオコーディング、空間分析、平和の礎、戦没者名簿、webコンテンツ

本邦唯一の地上戦となった沖縄戦。特に沖縄島南部では、狭い地域で多数の住民が死亡した。これら戦没者の情報は、出身市町村ごとに名簿としてまとめられ、戦没者の名前を刻銘した記念碑「平和の礎」の基礎データとなっている。このデータには、戦没者一人一人の氏名や様々な個人情報（死亡場所、生年月日、死亡年月日など）が入力されている。

本研究では、沖縄県旧具志頭村及び読谷村戦没者名簿の死亡場所から、その空間的分布を復元した。復元に当たっては、地名の正規化処理と旧市町村区域と現市町村区域を併用した沖縄細分図によるジオコーディングで、詳細な分布図作成に努めた。さらに、完成した分布図の属性情報によって空間分析を行い、各種主題図を作成した。空間分析は沖縄戦開始からの時系列、戦没者の性別・年齢による差異、居住字による戦没場所の差異などについて行った。

これらの空間分析結果を基に、避難民の足跡をたどる取材を重ねた。取材と空間分析結果を組み合わせ、新聞紙面とWEBコンテンツを連動させた「具志頭村『空白の沖縄戦』」を作成。戦争体験者の高齢化が進む中、戦時中の証言が少なく、記録の空白が多い地域では、空間分析が避難民らの足跡解明に役立つ上、グラフィック化で沖縄戦の実相も視覚的に伝わり、学校教材としても活用できる。GISコンテンツを活用する、報道の新たな可能性を探った。

上記コンテンツは以下のアドレスより、一般の方々も閲覧することができる。沖縄戦の実態を伝える新しい手法を提案できたと考えている。

<http://www.okinawatimes.co.jp/feature/01/>



具志頭村「空白の沖縄戦」
69年目の夏 戦没者の足跡をたどる

沖縄戦は戦時中最大の戦災をもたらした。戦没者の数は約25万人に達し、一人ひとりの命が大切に扱われ、今も、どこまでも残っている。平和の礎は、戦没者の足跡をたどる。具志頭村は、戦時中の証言が少なく、記録の空白が多い地域では、空間分析が避難民らの足跡解明に役立つ上、グラフィック化で沖縄戦の実相も視覚的に伝わり、学校教材としても活用できる。GISコンテンツを活用する、報道の新たな可能性を探った。

